【注意】

この問題はマークシート問題と記述式問題とにわかれています。
設問部分に「マ」とあるものはマークシート問題、「記」とあるものは記述式問題です。マークシート問題・記述問題ともにそれぞれ全問が通し番号になっていますが、記述式問題は設問ごとに個別にわけた解答欄となっています。
それぞれ所定の用紙・箇所に解答を記してください。

第1問　次の文の傍線部の読みを送りがなを含め「ひらがな」で書きなさい。

記1　看護師長の退職には、たいせつな拠り所を失った思いがする。
記2　珍重すべき有能な人物を職場に招いた。
記3　規定の業務以外の茶飯事にも臨機の対応が必要だ。
記4　診療所の再建をめざして東奔西走した。

第2問　次の漢字（送りがなを含む）の読みが正しければマーク欄［1］を、誤っていればマーク欄［2］を、それぞれチェックしなさい。

マ1　赴く［おもむく］
マ2　詳らか［なめらか］
マ3　昔日［せきじつ］
マ4　呆然［ほぜん］
マ5　登竜門［とりゅうもん］

第3問　次の文の傍線部の「漢字」表記として正しいものをひとつ選び、それぞれ該当するマーク欄をチェックしなさい。

マ6　悲願のジョウジュに全力を尽くした。　［1］成受　［2］成樹　［3］成就
マ7　ザンシンな看護技法を模索する。　［1］斬新　［2］漸新　［3］残新
マ8　筋肉のシカンが生じるのを確認した。　［1］弛寛　［2］弛還　［3］弛緩

第4問　次の文の傍線部のカタカナを文意に即して「漢字」で書きなさい。各設問には異なる熟語が入ります。また、同じ解答が複数箇所に書いてある場合はそのすべてを誤りとします。

記5　様々な宗教のキョウギを研究する専門家に出会った。
記6　患者の治療方針についてキョウギする機会をもつ必要がある。
記7　看護という言葉をキョウギに解釈することで得られる認識がある。

第5問　次のそれぞれの語の対義語ないし類義語をあとの語群からひとつ選び、記号で答えなさい。また、対義語の場合はA、類義語の場合はBを、それぞれ区分欄に記しなさい。

記8　左遷
記9　残念
記10　疎遠
記11　潤沢
記12　処理

【語群】

ア．措置　イ．過密　ウ．遺憾　エ．信頼　オ．親密
カ．座右　キ．栄転　ク．卑近　ケ．枯渇　コ．丘陵

第6問　次の慣用表現の空欄に入る最も適切な語句をあとの語群からひとつ選び、それぞれ該当するマーク欄をチェックしなさい。

マ9　〔　　〕を締める
［1］手元　［2］手首　［3］手綱　［4］手筈

マ10　さじを〔　　〕
［1］投げる　［2］曲げる　［3］折る　［4］嘗める

マ11　立て板に〔　　〕
［1］泡　［2］石　［3］砂　［4］水

第7問　次の語句の意味として最も適切なものをあとの選択肢からひとつ選び、それぞれ該当するマーク欄をチェックしなさい。

マ12　吹聴する
［1］耳をすませること　［2］噂などを言いふらすこと
［3］他人を非難すること　［4］楽器の演奏を楽しむこと

マ13　事なきを得る
［1］大切なものを失うこと　［2］損なった信頼を取り戻すこと
［3］幸運な経験をすること　［4］大事にならずに済むこと

マ14　如才ない
［1］抜かりがなかったり気が利いたりすること　［2］金銭や時間を浪費しないこと
［3］仕事や芸事に対する能力がないこと　［4］誠実さに欠けること

第８問　慣用表現を用いた次の文の空欄には、それぞれ身体の部位をあらわす漢字一文字が入ります。文脈から判断してもっともふさわしい漢字一文字を記しなさい。同じ漢字を複数回使用することはできません。

記13　この患者は、〔　　〕に入れても痛くないほど孫をかわいがっている。
記14　この学生は〔　　〕っ柱が強いことで知られている。
記15　失敗の〔　　〕ぬぐいをさせられる事態におちいった。

第９問　次の傍線部の現代かなづかいが正しければマーク欄［1］を、誤っていればマーク欄［2］を、それぞれチェックしなさい。

マ15　へえき（兵器）を輸入する
マ16　検査室をそうじ（掃除）する
マ17　つねずね（常々）思うこと
マ18　わこおど（若人）

第10問　論述には、論理的に常に正しいものと、常に正しいとはかぎらないものとがあります。次の文章が論理的に常に正しければマーク欄［1］を、常に正しいとはかぎらなければマーク欄［2］を、それぞれチェックしなさい。

【注】「ゆえに」の前の二つの文の叙述内容は常に正しいものであると仮定します。また、叙述の内容が実社会の現実と合っているとはかぎりません。

マ19　過疎地域の商店にはタクシーを手配するための公衆電話がある。この商店にはタクシーを手配できる公衆電話がある。ゆえにこの商店は過疎地域にある。

マ20　山岳医療の施設で働くには登山の知識が不可欠である。この診療所で働く医療者には登山の知識は必要ない。ゆえにこの診療所は山岳医療の施設ではない。

第11問　次の①と②の二つの文の論述内容が同じである場合にはマーク欄［1］を、同じでない場合にはマーク欄［2］を、それぞれチェックしなさい。

マ21　①　A市のノンステップバスはすべて市営のバスである。
　　②　A市の市営バスはすべてノンステップバスである。

マ22　①　この高齢者施設のイベントは必ず土曜日におこなわれる。
　　②　この高齢者施設では土曜日には必ずイベントがおこなわれる。

第12問　次の文と論理的に同じ内容となる文を選択肢からひとつ選び、該当するマーク欄をチェックしなさい。

【注】叙述の内容が社会の実態と合っているとはかぎりません。

マ23　看護学校の校舎にはすべて、エレベーター設備がある。

［1］看護学校の校舎以外の校舎はすべて、エレベーター設備がない。

［2］エレベーター設備がある校舎であれば、それは看護学校である。

［3］エレベーター設備のない校舎であれば、それは看護学校ではない。

第13問　次の①と②の二つの文の論述内容が同じである場合にはマーク欄［1］を、同じでない場合にはマーク欄［2］を、それぞれチェックしなさい。

マ24　①　病人というものは、脚の骨折のときに他人の手を借りないかぎり脚を動かせないのと同じように、外から変化が与えられないかぎり、自分で自分の気持ちを変えることができない。

②　外から変化が与えられないかぎり病人が自分の気持ちを変えることができないのは、脚の骨折のときに他人の手を借りないかぎり脚を動かせないのと同じである。

マ25　①　彼女たち（自ら看護師と称する教養豊かな人びと）は、自分の生活や仕事については、一日に何度も、あれこれ変化をもたせておりながら、寝たきりの病人たちを看護しているというのに、病人の身のまわりに変化をつけて気分転換をはかったりなどまるでせず、ただじっと重苦しい壁面を見つめさせておくのである。

②　彼女たち（自ら看護師と称する教養豊かな人びと）は、寝たきりの病人たちを看護しているときに、一日に何度も、あれこれ変化をもたせる一方、自分の生活や仕事については、身のまわりに変化をつけて気分転換をはかったりなどまるでせず、ただじっと重苦しい壁面を見つめているのである。

マ26　①　こういう看護師たちは、患者が窓の外が見えるようにベッドを移動することさえ、まずは思いつかない。

②　ベッドを移動するこういう看護師たちは、窓の外から患者が見えるようにすることさえ、まずは思いつかない。

マ27　①　それどころか、ベッドはいつも、その部屋のなかの最も暗くて最も殺風景な隅のほうに置かれたままである。

②　それどころか、ベッドが置いてあるのは、その部屋のなかのいつも最も殺風景な、いつも最も暗い隅のほうである。

【注】いずれも①の出典は以下のとおり（一部改変を含む）。
フロレンス・ナイチンゲール『看護覚え書（改訳第7版）』湯槇ます　ほか訳　現代社

第14問　次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

一九八〇年代以降の子どもの遊びには、以前とは異なるさまざまな変化がおこってきた。自然が豊富な農村地域でも、子どもたちは、野山で遊ぶよりファミコンなどの遊びに夢中になった。テレビの長い視聴時間が話題になった。いわゆる「遊ばない子ども」「遊べない子ども」などといわれ、そのことから、①　が問題にされた。

たとえば、学校の掃除で雑巾をしぼれない、ナイフで鉛筆が削れない、包丁でりんごの皮をむいたことがない、はしを正しく持てないなど、子どもの姿がとりざたされた。人間は、生物進化の産物として直立二足歩行を獲得し、手指が自由になったが、こうした②　のではないか、などの議論がされた。しかし、子どもたちの家庭生活は、当時でさえ、手やからだ全体を使っておこなう作業や手伝いなど、いわゆる家事労働自体がなくなっていったのである。こうした子どもを取り巻く環境との関連からみても、子育てや保育のあり方が問われてきたと思う。それから一〇年、二〇年を経てもなお、人間としてのあり方として、問い続けられているテーマである。

学校へ行くことができない、不登校の現象も、この頃から見られるようになった。

この問題は、個別事例を検討してすむ課題とはいえない面もある。しかし、敢えて個別な具体例から考えてみたい。なぜなら、私自身の身近におきた出来事があり、学校へ行けない子は〔　ア　〕がないからだという考え方や雰囲気に、強い違和感を覚えたからである。家族に不登校の子がいる苦労や思いを考え合いたい。そこには、日常の保育や子育てにもかかわる問題がたくさん含まれている。

理由はよくつかめないが、学校に行けなくなる。そのことから、仲間に入れなくなり、いじめにつながることもある。おとなたちは、学校や子どもをどう見たらよいのか。むずかしい応用問題を提示されたといえる。この中から、A[こうざくず]を重ね、いまある学校とは違うフリースクールという新たな試みも生まれていった。不登校の問題は、子育ての毎日と、学校自体のあり方を問う教育問題にもなっていったといえる。

私には、不登校の背景や要因を知ろうとする努力に、かなり力をさいてきたという思いがあるが、いまだに十分にはつかめない面がある。しかし、保育・子育てを考える時、不登校は大きな課題の一つである。迷いながら気づいたことを、親としての身近な経験から〔　イ　〕に述べてみたい。

長女は、中学へ入ってからだが、はじめは数日間、そのうち一週間、二週間、数か月と、長く休むようになった。狭い地域社会に暮らしながら、わが子が学校へ行かないことは、親として、うしろめたい気持ちであった。ほとんどの生徒が学校へ通うのに、なぜわが子だけが行けないのか、とても苦しい出来事であった。いや、ほんとうにつらいのは、本人であっただろう。だが、本人の心情にまで考えが及ぶのは、相当な時間が経過してからであった。

保育園長をしていた私にとって、自分の子が学校へ行かないことを、園の保護者はどう見ているのか、子どもが学校に行かないことをどう釈明すればよいのか、子育てについての自分の基本的考え方は、間違っていたのではないか、こんなことでは、園長職として失格ではないかなどと、悶々と悩み考える日々でもあった。

A ところで、保育実践の場で、子どもが、スムーズに次の行動へうつろうとしないことがある。どうしたらよいのかと、職員と時間を費やして話し合うことも、しばしばである。たとえば、一、二歳児の生活習慣の自立への道のりは、果てしなく長いと思うときがある。排泄の自立について考えてみよう。おむつをつけている子が、（おしっこがしたくなったという）排泄の感覚がわかるようになり、保育者に促されながら、トイレに行くようになる。だが、トイレに行くことをこらえていて、ついにがまんしきれずに、失敗をしてしまうことなどは、よくあることだ。友達がトイレに行くのを見たりしながら、ようやく「自分で、行ってみよう」と考える。そうして、なんとかおむつを卒業して、できるようになる。ところが、おむつをはずしてから、また、元のように失敗してしまうこともある。こうして、行ったり来たりしながら、排泄の自立という生活習慣を獲得していくことができる。振り返れば、せいぜい数か月や、半年程度なのだが、排泄の自立への道は、はるかに長いと感じてしまったのである。

こうした保育実践の場で大事にしていたのは、期限をつけて待つのではなく、「子どもが、自分から、その気になるまで、待ってあげよう」ということであった。それは、③ であった。そして、職員間で議論を重ね、子どもの気持ちへ寄り添いながら待っていてあげるとき、自分から次の一歩へすすむ姿に出会えるのである。

ところが、職場での保育に関する議論と、親としてのわが子への姿勢は、矛盾してしまう。私は、保育園では、こうした[B]しんぼう強さを持てるのに、学校へ行きたがらず、不登校で休んでいるわが子に対しては、この視点をもつことが、ほとんどできなかった。職場である保育園における自分と、家庭に帰って父親としてふるまう自分とで、考え方や対応の仕方に〔 ウ 〕がまるでない。それは、なぜだろうかと、悩む日々でもあった。

そんな時、フリースクールの先生に、すがるように相談したことがある。退職された先生方が、〔 エ 〕に始めた子どもたちの居場所である。そして、児童相談所の専門家のアドバイスも受けた。そうした方々に共通する助言は、休んでいる本人の側に立つべきだという内容であった。しかし、私の中には、受け入れられない何かがあった。それが何であったのか、いまだにわからない。

そんな繰り返しの末に、気持ちの上でだが、④ を反省することにした。いや、反省ということばよりも、諦める気持ち、という方が近いかもしれない。もちろん、完全に諦められるかどうかはわからない。でも、これは、どうしようもないことだと、身を引くしかなかった。親子関係は、ずっと続くのだからと。

つたない経験を通して辿りついたのは、次のような、きわめて〔 オ 〕考え方であった。

子どもが、どう生きるかは、子ども自身の人生であり、自分で決めることだ。おとな(親)は、子どもに代わって生きることはできないが、援助する責任や義務はあるから、可能な限り、応援することはできる。保育や子育ては、人間対人間の営みであり、迷い、ぶつかり合いは、あって当然なことかもしれない。しかし、生あるかぎり、それぞれが選択している親子関係である。この関係は、迷いながら、一生、続いていくのである。

どこかに書かれているような、ごく平凡な表現ともいえる。ただ、ここまで達するのに、ずいぶん時間を費やしたように思える。個人的な経験からだが、不登校には、幅広い課題があることを痛感してきた。わが子であっても、他人の子であっても、毎日のかかわりは、迷いや悩みの連続の日々である。

保育や子育ての営みを考えるとき、ゆったりとした時間の流れが必要ではないか。そこには、子ども、おとな共に、失敗を重ねながら自由に育ち合える、生きる時間が、必要なのではないだろうか。この時間の中で、子どもは、人とかかわりながら、心身を使い、おもいっきり遊ぶという経験が重要になるのである。特に、乳幼児期の保育の場こそ、それが[c]ほしょうされるべきことだと考えている。

近藤幹生『保育とは何か』岩波新書

1509

マ28　空欄 ① に入る最もふさわしいものを以下からひとつ選び、該当するマーク欄をチェックしなさい。

[1] 遊びの種類とそれらをめぐる環境との関連
[2] 遊びの大切さと生活に必要な技能との関連
[3] 遊びの近代化と子どもの五感との関連
[4] 遊びの内容と子どもの精神構造との関連

マ29　空欄 ② に入る最もふさわしいものを以下からひとつ選び、該当するマーク欄をチェックしなさい。

[1] 人間の単純な能力が複雑化することになる
[2] 人間本来の特質が後退することになる
[3] 人間だけの特性は機械や技術で十分に補いうる
[4] 人間特有の行動がさらに進化することになる

マ30　空欄 ③ に入る最もふさわしいものを以下からひとつ選び、該当するマーク欄をチェックしなさい。

[1] とても粘り強い保育者の姿勢
[2] 古くから伝わる保育の基本的態度
[3] 職務上せざるをえない保育者の対応
[4] 昨今の社会情勢から整備された保育理論

マ31　空欄 ④ に入る最もふさわしいものを以下からひとつ選び、該当するマーク欄をチェックしなさい。

［1］わが子への押し付け
［2］保育園長としての考えや業績
［3］フリースクールや児童相談所への対応
［4］不登校児への世間並の見方

マ32　文中の〔 ア 〕から〔 オ 〕に入る言葉の組み合わせとして最もふさわしいものを以下からひとつ選び、該当するマーク欄をチェックしなさい。

［1］〔ア〕やる気　〔イ〕具体的　〔ウ〕整合性　〔エ〕義務的　〔オ〕厳密な
［2］〔ア〕自尊心　〔イ〕論理的　〔ウ〕継続性　〔エ〕自主的　〔オ〕高尚な
［3］〔ア〕向上心　〔イ〕個人的　〔ウ〕関係性　〔エ〕主体的　〔オ〕自明の
［4］〔ア〕真剣さ　〔イ〕一般的　〔ウ〕統一性　〔エ〕自発的　〔オ〕深遠な
［5］〔ア〕社会性　〔イ〕体験的　〔ウ〕一貫性　〔エ〕献身的　〔オ〕普通の

記16　傍線部A「しこうさくご」を文脈にふさわしい漢字に直しなさい。

記17　傍線部B「しんぼう」を文脈にふさわしい漢字に直しなさい。

記18　傍線部C「ほしょう」を文脈にふさわしい漢字に直しなさい。

記19　本文の内容の説明として、正しいものには○を、正しくないものには×を解答欄に書きなさい。

① 筆者は、保育や子育てと不登校の問題はまったく別の問題と考えている。
② 筆者は、子どもの成長にとって子どもを取り巻く生育環境がどのようであるかが非常に重要だと考えている。
③ 筆者は、保育園長としての自分と不登校児の親としての自分に見過ごすことのできない違いを感じたが、そうした自己矛盾は仕方がないものとあきらめている。
④ 筆者は、最終的に自分の子どもの不登校の原因を突き止めることができたと考えている。
⑤ 筆者は、保育や子育てで一番重要なのは地域社会の連携とそれを支える社会制度の仕組みだと考えている。

記20　段落 A において筆者は幼児の排泄の自立に関してのべているが、この段落は本文全体の論旨なかでどのような役割を担っているか。本文全体における筆者の論旨を示しながら、一〇〇字以上、一二〇字以下で説明しなさい。句読点も一字分とします。冒頭の**一字下げ**は不要です。